

発行・編集



特定非営利活動法人 SHIP

<http://www.ship-web.com/>

〒221-0834 横浜市神奈川区台町7-2 ハイツ横浜713号室

e-mail: info@ship-web.com

TEL/FAX. 045-306-6769(水・金・土16~21時、日曜14~18時)

Twitter: @SHIP_official

CONTENTS

- 性別違和感を持つ生徒に対する学校の対応.... 1
- 性同一性障害の高校生が抱える悩みと学校の対応.... 2
- 性的マイノリティを取り巻く学校の動き..... 3
- 性的マイノリティを取り巻く社会の動き..... 4
- 2013年度からの新規イベント..... 4

特集 性同一性障害

性同一性障害の子どもにとって、男女に分かれて行動することの多い学校生活は、精神的苦痛を伴うものでもあります。しかし、その苦痛は学校や教員の対応によって、軽減することが可能です。性同一性障害の生徒に必要な環境、そして心身共に発達段階にある当事者が抱える問題について、臨床心理士、性同一性障害の生徒の担任教員、当事者生徒にお話を伺いました。

トピックス

神奈川県教育委員会で
人権ワークシート集
(小・中学校編)を発行!

詳しくは3ページ

性別違和感を持つ生徒に対する学校の対応

立教女学院短期大学現代コミュニケーション学科 佐々木孝子(臨床心理士)



中学、高校で自分の性別に違和感を持った生徒がいる場合、どうすればよいのでしょうか。簡単なようで難しい問いです。学校の先生方が一番に思いつく答え、それは「専門病院に行ってもらおう」ではないでしょうか。しかし、専門の医療機関に勤務している私はあえて違う答えを持っています。それは、「先生方とその生徒と一緒に適応感を持てるラインを考えていく」です。身体への医学的介

入(ホルモン療法や手術など)を強く求めている場合は別ですが、なにはともあれ一番問題として浮上していることが制服や更衣室などの生活上の問題であれば、病院では対処できませんが、学校でこそ対処できることだからです。

「そんなこと言っても性同一性障害の診断を受けていないとワガママなのか本当に学校で対応すべきことなのか分からない」と思われる教員の方もいらっしゃるかもしれません。しかし、学校の先生こそ本人の状態を医療者よりもはるかによく知っている存在です。日常生活で毎日のように生徒と接している教員であれば、その生徒の訴えが「ワガママ」なのか、それとも「性別のために辛い思いをしている」のかかわかると思います。

たとえば、女子の制服を着たくないと言われ「ワガママだ」と反応する先生方はいると思います。しかし、不適応な自分を適応レベルまで持っていくというのが背景にあったとしたらどうでしょうか。性別に違和感があるというのは、「違和感」ですので、本人としたら混乱していたり、辛かったり、どうしていいかわからなかったりと、決して楽しい状態ではありません。その不適応な状態を何とか少しでも改善したいと思い、「せめてスカートは履きたくない」と申し出ているのです。こうしたことをヘラヘラした態度で言う生徒もいます。それを見て不信任や嫌悪感を抱く教員の方もいらっしゃるかもしれません。しかし、性別のことを正面から話すことは気恥ずかしく、つい不真面目な態度をとってしまうことも理解してあげたいことです。女子の制服ではないものを着たいという訴えは、性別への違和感を低減しようとする行動の一つです。これは「ワガママ」ではなく、辛い状態から抜け出そうとする、前向きな行動です。学校にこの訴えをできなければ、学校に行くことを諦め不登校

となったり、鬱々とした気持ちのまま学校生活を送ることになるでしょう。むしろ「黙って我慢して潰れてしまう前に、訴えてきてくれてよかった」と思える行動だといえます。

このような本人の辛い思いに対し、「病院に行かなかったら対応しない」と学校側から言われたケースを何度も聞きます。診断は、戸籍の性別を変更する場合は必須ですし、身体的な医学的介入をしたい場合は必要となることがほとんどです。しかし、「学校で望みの性別の制服を着るために」必要なはずがありません。もっとも状況をよくご存知である学校の先生方が本人と話し合い、一緒に決めていくものなのです。学校生活が改善することで、もしかすると性別違和感が減り、身体的な医学的介入をしないという選択につながるかもしれません。あるいはより医学的介入をしたい気持ちが募るようになるかもしれません。いずれにせよ、まずは学校生活でどの程度、性別違和感を小さくできるかが鍵です。そのための手はずを整えられる人は、他ならぬ学校の教職員なのです。

最後に、「専門の医療機関に行くべき」ケースについてお話をしたいと思います。上記のように学校生活(制服やトイレなど)における性別の悩みであれば医療機関に行く必要はありませんが、身体的な治療を求める場合には、しっかりとカウンセリング体制の整った専門の医療機関への受診を勧めていただきたく思います。思春期から青年期にかけてのホルモン療法には大きく分けて第二次性徴を抑える治療と、性自認の性別の身体に近づける治療とがあります。特に後者は一部不可逆的な治療であるため、自己の探求が始まったばかりの青年期には、ある程度の時間をかけ、熟考した上で治療を受ける必要があると考えられています。青年期は、個人差はありますが、「黒か白か」、「男か女か」という極端な二分法的思考に陥りやすく、曖昧さ耐性が未熟な上、性急で焦る傾向があるからです。また、こうしたカウンセリングにより、性別移行前、移行中、移行後の自分の人生について考える時間を担保することができます。ホルモン療法の副作用や将来的な結果についても、しっかりと説明する医療機関とそうではない医療機関とさまざまです。未成年であればあるほど、安全な医療を受けるために、信頼できる医療機関はどこかという情報収集なども含め、周囲の大人たちがサポートしてあげられることが大切だと思います。

性同一性障害の高校生が抱える悩みと学校の対応

性同一性障害にとって身体が大きく成長する思春期に体の違和感は大きいものがあります。性同一性障害の生徒を持つ先生から学校の対応と、当事者の高校生に自分のセクシュアリティに気付いてから治療に至るまでのことを伺いました。

学校の対応や本人の様子について

哲生くんの担任

本校は全日制普通科(単位制)の高校です。生徒の多様な学習希望に応える特色ある教育活動を実施しており、学年クラス単位で授業を受けることは少ないです。制服がないことは本校に入学した理由の一つのようです。

入学前



入学式前に母親、本人、管理職、担任で面談をしました。『本人の希望を聞き、学校でできることはできるだけ対応していきましょう』ということで話し合いました。本人から「名前:高校に通っている間に改名の予定なので『 』という通称名をつかわせてほしい 性別:戸籍上の性別は女だが学校での性別は男にしてほしい トイレ:障害者用トイレがあるならば使わせてほしい、以上3点を紙面で提示してきました。トイレについては検討し、名前と性別については現状通りでいくことになりました。学校側は担任・養護教諭・教育相談コーディネーターがいつでも相談にのる体制を整えました。

入学後

ホームルームで自己紹介をした際、本人の口から「性同一性障害です」と話しました。クラスメートはさほど驚いた様子はありませんでした(意味がわからなかったのかもしれないが)、名前の呼び方について、本人の希望もあり名字の頭2文字を呼び捨てで呼ぶことにしました。入学後、何回か面談を実施しましたが「全然問題ないです、快適です」という声が返ってきていました。ある時、「くん」さんと区別して呼ぶ先生から「さん」付で呼ばれるのはいやだと申し出てきたことがあったので、早々に教職員に徹底してもらいました。トイレや着替えについて、5月頃までは保健室用トイレ等を何度か使用していたようです。後でわかったことですが途中から自分の判断で男子トイレを使用するようになったそうです。

ホルモン注射を打ち始めて

6月頃から母親には内緒でホルモン注射を打つようになりましたが、8月中旬に母親にわかってしまいました。その後家出をしたため、母親は心配し学校や警察に相談しました。数日後、本人と連絡が取れ、いろいろ話を聞くことになりました。その際、母親としっかり向かい合って話をするよう本人に勧めました。母親も勉強し、徐々に理解できるようになってきたようです。

現在の様子

7月頃から学校を休むようになり授業には出ていません。9月に面談をした際「学校をやめたい」と言い出しました。理由は、ホルモン注射や手術をするためにお金が必要とのことでした。昼間アルバイトをしているため学校に来る時間がありません。将来のことを含めいろいろ話をした結果、手術が終わった段階で再度考えるということになりました。11月頃からSHIPによる県立高校での講演会に参加するようになり、楽しく活動しているようです。最近では高校生活を楽しまたいとの思いが強くなり、早く登校したい様子が見られます。保健室では現在も養護教諭が頻りに相談にのっています。



2013年12月22日 朝日新聞

当事者の感じる気持ちと学校生活について

哲生くん/ 高校1年・FiM

自分のセクシュアリティに気づいたのはいつ頃ですか？

中学2年生の時にネットで「性同一性障害診断テスト」をしたのが、自分のセクシュアリティを確信するきっかけでした。それまでは、自分は女性が恋愛対象なので、同性愛者なのか?と疑問を抱いていました。

そのときはどうしましたか？

仲の良い友達や、先生にカミングアウトしました。周囲の人からレスだと思われて、よくからかわれていました。それが嫌で自分はレスじゃない、性同一性障害と呼ばれるもので、心が男性で、男性として女性が好きなので、異性愛者なのだと思って欲しくて、その趣旨を伝えました。

親へカミングアウトはしましたか？

中学3年生の夏の三者面談の時、担任の先生を通してカミングアウトしました。事前にスクールカウンセラーが親に話をしたようです。「偏見はないけど治療は20歳になって自立してからやって」と言われました。でもそれまで絶対待てないので、バイトを始め、県内と東京の病院に片っ端から電話をし、治療してくれる病院を探しました。

高校の進学の際はどうでしたか？

入学前に校長先生を訪ねて、配慮してほしいことを要望したのですが、とても協力的に対応して下さいました。でも、親の許可を得られなかったので、実現はできませんでした。

去年11月に学校の先生や生徒向けに講演をしましたが、そのときの感想を聞かせていただけますか。

初めての講演でうまく話せるか不安でしたが、いざ前に立って自己紹介をすると、自然と不安はなくなりました。講演を終えてみると、人前で話すことを気持ちよく感じていて、またやりたいと思いました。

朝日新聞に講演のときの記事が載りましたが、何か反響はありましたか。

同じ中学だった人や、同じ高校に通う人達に「かっこいい!!本当に尊敬する!!」新聞見たよ!!応援してる!!頑張ってる!!」すげえ。かっけー。行動力リスペクト」など本当に多くの人から暖かい言葉をもらいました。「周りに恵まれている」「支えられている」と身に染みて感じることができました。本当にありがとうございました。

これからの夢を聞かせてもらえますか？

治療について、今はリスクやお金のことを考え、全ての手術をするつもりはありません。20歳になったら戸籍変更は必ずします。職業については、鍼灸師になって接骨院を開業しようと思っていますが、鍼灸に限らず、独立したいと考えています。

ありがとうございました。(聞き手:星野慎二)

哲生くんは昨年11月からSHIPの活動として学校の講演のゲストスピーカーとして参加していますが、講演先の先生や生徒から励ましの言葉をいただき生き生きとしてきました。今は学校を休んでいますが、4月からまた学校に通う為の準備をしているところです。

新企画 「親の会」が夏からスタート

子どもからカミングアウトされた親御さんの多くは子どもの将来が不安になり、周囲にも相談ができず悩んでいます。そんな親御さんが集える「親の会」を新しくスタートすることになりました。詳しくは7月ごろにホームページでご案内します。

性的マイノリティを取り巻く学校の動き

ゲイの高校生が県定時制生徒弁論大会で発表!

星野慎二

昨年10月、横須賀市立総合高等学校で開催された「神奈川県高等学校定時通信制生徒生活体験発表会」において、県立横須賀高等学校定時制3年のかつちゃんが自らのセクシュアリティに気付いてから今までの生活体験を発表しましたので、高校をたずね保健室の先生とかつちゃんに話を伺ってきました。



かつちゃんからカミングアウトされたのはいつごろですか?

先生 高校1年のときでした。保健室で、先輩がSHIPのポスターを見て話をしているところに、かつちゃんが入って来て「僕もゲイだよ」と話したのが初めてでした。

かつちゃん 話の流れで言ったので、特に何も考えずに言ったと思う。

先生 定時制はいろんな背景をかかえている人が多いので、そのときも先輩に続けて言われたので、そうなんだというだけで、特に印象に残ってないです。

かつちゃん そのとき先生からSHIPの事を教えてもらい、行ってみたいと思ったけどそのときはお金がなくて行けず、2年になってからSHIPの10代のイベントに初めて参加しました。

弁論大会はどんな大会ですか?

先生 定時制や通信制高等学校の生徒の今までの体験や、学校生活を通して、感じ、学んだ体験を発表するもので、7月に校内生活体験発表会があり、そこ

で最優秀発表者2名が10月の県大会に進みました。

かつちゃん 去年も出ようと思ったのですが、勇気がでず書けなかったのですが、今年は思い切って出る事にしました。今回、伝えなかったのは、「男なら誰でもいい訳じゃないんだよ」ということ。あと、学校の中には言えないで悩んでいる子もいると思うので、そういう子に「一人じゃないんだよ」ということを伝えたくて出る気になりました。

全校生の前で話をして反響はどうでした?

先生 かつちゃんの一言一言に説得力があり、みんな息を吞んで聞いていました。

かつちゃん 最初、序盤のセクシュアルマイノリティの言葉の説明と「自分が同性を好きと自覚したのは中学2年のときです。」と話をしたところで、一瞬ざわざわとしたんですけど、そのあとシーンとなりました。終わったあとで、先生や保護者の方から聞いた話では、自分のときが一番静かだったらいいです。

先生 かつちゃんの話聞いて、今までややもやしていた子が、「自分は女性で女性が好き」と明確になった子がいました。

この3年間でかつちゃんははどう変わってきましたか?

先生 素直にそのままですね。元々自分のアイデンティティについては意識が高い方でしたが、次第にそのアイデンティティが固まってきて、揺るがなくなってきましたね。また、アイデンティティがしっかりしてきてから、またみんなにも優しくなってきました。

かつちゃん 最初の頃はもやもやしていたけど、はっきり固まってきました。発表の文章を作っているときに「これがセクマイとしての僕のスタートです」という文章を担当の先生から言われて付け加えたのですが、このことにより自分の中で区切りが付いたと思います。発表会でこれを読んでから変わったと思います。

先生 かつちゃんは、今年からは生徒会副会長にもなりました。本当に成長したと思います。

教育委員会の取り組み

神奈川県教育委員会 行政課

平成22年4月発出の文部科学省通知「児童生徒が抱える問題に対する教育相談の徹底について」では、性同一性障害を始めとする新たな課題についても学校において適切に対応ができるよう、必要な情報提供を行うことが県教育委員会に求められています。

こうした中、神奈川県教育委員会では、平成24年11月に「全県人権教育研究発表会」において県内の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の教職員等、約200名に「学校における性同一性障害のある児童・生徒への支援について」をテーマとした性同一性障害当事者の方の講演を聴いていただきました。その感想から、多くの教職員が性的マイノリティについての知識や支援のノウハウを欲していること、しかしながら、1時間程度の講演ではそれらについて正確に理解されなかった部分も少なからずあったこと等が感じられました。

また、県人権教育担当者会議(学校教育部会)では、性的マイノリティを揶揄するようなテレビ番組が多い中、性的マイノリティの正しい理解は児童・生徒にも必要であるという意見が出されました。

こういったことを受け、平成26年2月に「人権学習ワークシート集 人権教育実践のために 第14集(小・中学校編)」を発行するにあたり、「性的マイノリティの人権」に関する教職員用ワークおよび児童・生徒用ワークを掲載することにしました。教職員用ワークは、教職員が性的マイノリティを正しく理解するとともに、その支援について考えることをねらいとしています。

また、児童・生徒用ワークは、主に中学生を対象としたもので、世の中には、多様なセクシュアリティがあることを学び、自分の性を見つめるとともに、性的指向や性についての考え方、心のありようはその人の個性であり、自由なものであることを理解することをねらいとしています。これらのワークが、性的マイノリティの理解と支援の一助となることを願ってやみません。



高校生向け授業

白銀

高校生向けの授業に、高校生の当事者がゲストスピーカーで参加しました。

2013年度のニュースレターVol.2でもお伝えしましたが、学校の授業で性的マイノリティを扱うケースが着実に広がってきて

います。今回は、横浜市内にある県立金沢総合高等学校で、福祉を勉強している2年生24名と3年生1名を対象に、代表の星野と、FTMの哲生くん(高校1年生)とゲイのかつちゃん(高校3年生)が、二時限に渡り授業をさせて頂きました。

昨年度もSHIPによる性的マイノリティの授業を主催して下さった、福祉の授業を担当されている大高先生の「福祉を学んでいる生徒達に、広く浅く、そして現場の声から学んで、共感して聞いて欲しい。」という考えのもと、今年は少人数に別れたグループワークも取り入れられ、同年代同士で、活発な質疑応答が飛び交いました。

受講した生徒からは、「女の子同士でじゃれあっていると、お前らレズか!?って簡単にからかって言ってたけれど、当事者を傷つけていたかもしれない。」「TVの中だけの話しだと思ってた。でも、今日のスピーカーの人達の話には、すごく共感できたよ。」などの感想を聞くことができました。

今回は一般教室での授業ということで、スピーカーと生徒側との距離が近く、哲生くんとかつちゃん、二人ともに「真剣に話を聞いてもらってた。自分を伝える事ができて、今日は本当に良かった。」「体育館みたいな所で、一度に大勢の人に聞いてもらうと、なかなか質問が来ないんだけど、今日は質問攻めだった。自分もとても面白かったので、また、機会があったらチャレンジしてみたい。」との感想でした。

授業の最後に、大高先生がまとめとして、「今日の話しを、1人が5人に話しましょう!そうすると、(世の中に)変化をもたらす運動になります。」と言われた言葉は、存在をなかなか認められない性的マイノリティの当事者にとって、何より嬉しい応援の言葉であったと感じました。



性的マイノリティを取り巻く社会の動き

カミングアウトする、しないに関わらず、生きづらさを感じながら生活する性的マイノリティは多くいます。性的マイノリティが生きやすい社会にするため、当事者団体等の要望により、行政も動き始めました。今回はその中の3つを紹介します。

行政でも、性的マイノリティに関する情報提供と理解促進のための協力が始まっています。白銀

2014年2月10日～14日にかけて、横須賀市役所本庁舎展示スペースにおいて、性的マイノリティに関するパネル展示が行われました。この企画は、平成24年度、SHIP代表の星野が横須賀市人権施策推進会議のメンバーに選任され、そこで提言された内容が横須賀市人権・男女共同参画課により実現しました。



性的マイノリティの理解促進のため、展示コーナーに性的マイノリティ当事者とその家族・友人のメッセージが書かれたポスターや性的マイノリティの象徴であるレインボーフラッグが展示され、横須賀市民をはじめ、市役所を訪れたたくさんの方々をご覧になっていました。

中には家族連れで来ていた小さなお子さんが、SHIPのパンフレットを手取る場面もあり、行政でのこうした活動が理解に繋がることを実感致しました。また、2月7日～28日にかけては、横須賀市立南図書館の特設コーナーで、性的マイノリティ関連の本が約30冊展示されてました。

図書館の正面玄関から入ってすぐの場所に特設コーナーが設けられ、こちらにもレインボーフラッグがあり、図書館を訪れた多くの方々へ存在を知って頂く良い機会になりました。

性同一性障害について、文部科学省が小中高対象に初の実態調査 鈴木

生まれもった体の性と、自己認知の性が異なる「性同一性障害」。文部科学省は全国の全ての小中学校を対象に、初の「性同一性障害」の実態調査を開始しました。2013年度中に調査結果をまとめて、施策に活かす予定です。

文部科学省は全国の教育委員などに調査実施の依頼文を発送。学校は、2013年4月から2014年2月に性同一性障害に関連してうけた教育相談につい

て、特別の配慮の有無とその内容を回答します。

性同一性障害の子どもは学校生活において、制服、トイレ、着替えなどに苦痛を感じたり、いじめや不登校、自殺に至る深刻なケースも少なくありません。現在は学校、教員の理解度により、対応の差があります。

今回の調査で、「性同一性障害」の児童・生徒が学校で置かれている現状を把握し、どの学校であっても、当事者の事情を配慮した環境を整備することが期待されます。そして、今後は「性同一性障害」だけでなく、他の性的マイノリティの実態把握や対応も望まれます。

性的マイノリティに対する差別言動は、セクハラになります。

鈴木

男女雇用機会均等法の改正により(2014年7月施行)同性同士の言動も、セクハラの対象であることが明記されます。また、厚生労働省は、労働政策審議会の中で、性的マイノリティに対する差別言動もセクハラであると答弁しました。これは、職場で性的マイノリティに関する差別的な言動があり、セクハラだと訴えがあった場合、他のセクハラと同様の措置が義務付けられることを意味します。

今後は、同性間であっても、「女らしさ」「男らしさ」、性別での「役割」を求める言動、性的な経験談を話す、聞く、性的な冗談、からかいなどもセクハラとなります。

これまで、日本では性的マイノリティの差別を禁止する法律はありませんでした。偏見を恐れ、性的マイノリティであることを隠して組織の中で過ごす当事者は多くいます。また、性的マイノリティという理由で、会社で不当な扱いを受けたり、ひどい場合は退職に追い込まれる人もいます。

法律が整うことは、当事者にとって心強いことです。しかし、偏見をなくするには、社会で性的マイノリティの正しい理解が必要です。SHIPでも、一般社会の理解を高めるために、学校、医療機関、一般の方々への講演、相談活動を行っています。当事者がありのままに、社会の一員として過ごせるよう、今後も活動に取り組んでまいります。

2013年度からの新規イベント

性別に違和感がある人向けのイベント「T-LOUNGE SHIP」開催 長野

SHIPでは2013年度より新イベント性別に違和感のある人向けの「T-LOUNGE SHIP」と、40代以上向けの「40サロン」を始めました。今回は「T-LOUNGE SHIP」参加者の感想を紹介します。

10代から20代の、性別に違和感がある人(性同一性障害、トランスジェンダー、自分がそつかなと思っている人)が、毎回1つのテーマに沿っておしゃべりするイベントです。これまでに話したテーマは「仕事」「カミングアウト」「恋愛、出会い」等々。参加者の方からは、こんな感想が寄せられています。

色々な人、自分に近い人がいて「やっぱりマイノリティって言っても、たくさんいるじゃん!」と思えて嬉しかったです。

自分のようなあまりFtMらしくないFtMが参加してもよいのか、知らない人と話すのは苦手なので話せないか不安だったけど、和やかな雰囲気、スタッフの方の司会やイベント進行もうまく、話しやすかったです。

2013年は計4回開催し、2014年度も2、3カ月に1回の頻度で開催予定です。

寄付のお願い

SHIPの活動資金は主に、皆様からの寄付金や会費収入によって成り立っています。コミュニティスペースの運営、HIV・性感染症検査、電話相談、カウンセリングの安定した提供を行うためにも是非ご協力をお願いします。

● 1口 500円以上

振込口座
郵便局から …… 振込口座 00230-2-124887
銀行から …… ゆうちょ銀行 ○二九支店 124887
口座名義: 特定非営利活動法人SHIP

賛助会員の募集

資金面でサポートしていただける賛助会員を募集しています。
賛助会員(個人)…10,000円/賛助会員(団体)…20,000円
学生サポーター会員…5,000円

申し込みはwebで受け付けています。

<http://www.ship-web.com>